



## やりたいことができる学校に

令和7年度がスタートしました。新しい1年生89人を迎えて、今年は507名と、ついに児童数が500人の大台を突破しました。私が赴任した3年前に比べて70人以上も増えており、学校がにぎやかになってうれしい反面、毎年全校児童の顔と名前を覚えようと頑張っているものの、記憶力の衰えも加わってか、なかなか追いつかないのがちょっと悲しいです。

児童数が500人というと、一見多いように思えますが、学校の規模で言うと中規模校の大きさです。しかし、もともと各学年2学級規模の設計で建てられた校舎は、毎年教室の増設を繰り返し、今年も次年度に向けて工事する必要があります。令和8年度から始まる新校舎建設が一段落するまでは、いろいろな工夫をしながら児童の学習環境を守っていきたいと思います。

さて、昨年度は創立150周年に沸いた天王寺小学校ですが、祭りの後の寂しさを感じる暇もなく、新たな一步を踏み出します。昨日の始業式で、私が2年生以上の子どもたちに言ったことは、「やりたいことを見つけよう。」です。毎日の学校生活を楽しいものにするために、自分がやりたいとかできるようになりたいとか、夢中になれることがあればいいなと思ったからです。真面目に考えると難しくなるかもしれません、外で遊ぶことが好きな子が、クラス全員を引き連れて遊んだり、絵を描くことが好きな子が、クラスで自分の作品展を開いたりと、この一年間で、こんなことができたらきっと楽しいクラスになるだろうなど想像するだけで、ワクワクした一年間になるような気がします。そして、やりたいことならば、自分で主体的に行動できると思うのです。

しかし、現実の社会は、やりたいことだけを好きにさせてくれるほど甘いものではありません。ですから、もう一つ、「やらなければならないこと」も考えてもらうように話しました。高学年ならば学校のリーダーとしてやらなければならぬことがあるでしょうし、低学年ならば、やらなければならぬことにきちんと取り組むことで基礎・基本が身に付きます。そして、「やりたいこと」と「やらなければならぬこと」のバランスがしっかりとれた時、子どもたちにとって、充実する学校生活が送れるようになるのではないか。恒例の校長先生からのお手紙に、今年はどんなことを書いてくれるのか、楽しみにしています。(2年生から6年生の児童に書いてもらうつもりです。)

子どもたちが、「やりたことができる学校」と思えるように、教職員一同チームワークを大切にしながら取り組んでいきたいと思っています。今年度も、どうぞよろしくお願ひいたします。



# 【 今年度の学校経営方針 】

## 「着実な教育実践のもと、新しい一歩を踏み出す学校を作る ～やりたいことができる学校に～」

学校には学校教育目標があり、天王寺小学校は「心豊かで助け合うたくましい子の育成」を掲げています。そして、それを具現化するために、校長が毎年教育活動の方針を立てて、教職員とともに教育活動に取り組みます。今年度の具体的な取り組みは以下の通りです。

1. 児童が安全・安心な環境のもと、主体的に学校生活を送れるように支援する。

【取り組み】自他を認め合う集団の育成、児童自身が考え判断する指導、たてわり活動の充実、いじめ・不登校への組織的な対応、家庭・四恩学園との連携、渡日児童への対応、Q-U（学校生活満足度調査）の活用、※多方面からのアプローチを。

2. 優れた教育実践を重ね、児童がこれから社会で生きるために必要な力を養う。

【取り組み】主体的で対話的で深い学びに向けた授業改善、ICTのさらなる活用、専門性をもった特別支援教育、  
※漢字検定などこれまでの取り組みとのバランスを考えながら、できることをやりきる。

3. きれいな学校を作り、児童の規範意識を高め、児童が落ち着いて学習できる環境を作る。



【取り組み】あいさつの励行、時間（登校や授業の開始時刻）を守る、授業規律の確保、名札の着用、廊下の歩行、校内環境整備（定物定位、不要なものを片付ける）、  
※天小ガイドブックを活用してルールを形骸化させない。

4. 運動好きの子どもを育て、体力・運動能力の向上を図る。

【取り組み】体育科学習の授業改善、クラス遊びなど授業以外に体を動かす習慣作り、  
健康・食に関する教育の継続的推進 ※身体とともに心も健康に。

5. 教職員の服務規律を確保しながら、気持ちよく働くことができる職場環境を作る。

【取り組み】教育服務の厳正、風通しの良い職場環境、時間外勤務の削減意識と効率化、  
※教職員の笑顔が子どもの笑顔を作る。



これらのことは、学校だけでできるものではありません。  
登校時間や家庭学習など、ご家庭や学園の協力なしには  
できない事もたくさんあります。ご理解とご支援をたまわります  
よう、どうぞよろしくお願ひいたします。